

教科教育課だより

～未来ある子供たちのために For Our Children～

第20号 H30. 8.31

茨城県教育研修センター
教科教育課
☎0296-78-3213 (直通)



7/31 いばらきの水環境から未来を考える 夏のESD研修講座 を実施しました

茨城の水環境から、歴史的・科学的な視点でESDの進め方を考える

この講座は、歴史的及び科学的な視点からの講義・演習やESDの視点を踏まえた環境教育活動を考える演習・研究協議を通して、環境教育の推進と教員の指導力の向上を目的としています。

午前は、本研修センターの郡司丈児主査と国立環境研究所地域環境研究センター湖沼・河川環境研究室室長の高津文人氏より、それぞれ歴史的、科学的な視点から茨城の水環境について話をいただきました。茨城の地形の成り立ちと歴史との関連性、霞ヶ浦の特徴・水質の現状、自然浄化等の話に受講者も熱心に耳をかたむけていました。

午後からは、ESDの視点を踏まえた環境教育の計画について班別に協議・発表を行いました。総合的な学習の時間をESDの視点で見直して構成したり、ライフスタイルを見直すためのESDのプログラムを考えたり、各班とも活発な協議が行われました。

演習・研究協議「ESDの視点を踏まえた環境教育プログラムの作成」



▲班別での協議の様子



▲協議内容の発表の様子

受講者の声

- ・これまでの学習をESDの視点を踏まえて改善することで、児童生徒が『社会の一員』ということを感じられるようになると考えられる。
- ・ESDは様々な教科や学校生活等、いろいろな視点で取り組んでいく必要があり、どの単位でどのように取り扱っていくのか、見通しをもって進めていくことが大切であることを感じた。
- ・市民として教師としてできることは何かを考えたい。

ESDとは？

Education for Sustainable Developmentの略で「持続可能な開発のための教育」と訳されています。ESDとは、現代社会の課題（環境、貧困、人権、平和、開発等）を自らの問題として捉え、身近なところから取り組む（think globally, act locally）ことにより、それらの課題の解決につながる新たな価値観や行動を生み出すこと、そしてそれによって持続可能な社会を創造していくことを目指す学習や活動です。

つまり、ESDは持続可能な社会づくりの担い手を育む教育です。



講義・演習「霞ヶ浦・利根川水系が茨城に果たした役割」の様子



講義「ESDの視点から考える霞ヶ浦の保全」の様子